

# 会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2023 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2023 年12月1日(金)15 時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール/9F 904教室
参 加 者	<p>&lt;外部委員:3名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>小山 誠之 (株式会社パワープレイス プレイスデザインセンター教育・公共デザイン部 部長) (欠席)島田 祐輔 (apgm デザインアトリエ/法政大学大学院デザイン工学研究所 兼任講師)</p> <p>鈴木 俊恵 (STeam/一般社団法人 日本インテリアコーディネーター協会 東京圏支部)</p> <p>&lt;内部委員:2名&gt;</p> <p>高山 寿一郎(専門学校 東京テクニカルカレッジ インテリア科科长 議長)</p> <p>村田 涼 ( 同 インテリア科 書記)</p>
	<p>&lt;第二部 系別分科会&gt;15:40～17:00 9階904教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議長挨拶(高山)</li> <li>2. 前回(系別分科会)議事録の確認(村田)</li> <li>3. カリキュラムのチャートと改善点について</li> <li>4. 就職状況に関する報告</li> <li>5. 資格試験に関する報告</li> <li>6. 海外研修実施のお知らせ</li> <li>7. 高専連携授業に関して</li> <li>8. 次回予定・閉会の挨拶</li> </ol>
討 議 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議長挨拶(高山)</li> <li>2. 前回(系別分科会)議事録の確認(村田)</li> <li>3. カリキュラムのチャートと改善点について</li> </ol> <p>【高山】 配布資料、アドミッションポリシーとカリキュラムポリシーとディプロマポリシーについて説明。 入学(入学前)から卒業に向けてのゴールを意識できるよう、常に見せて確認をして貰う形にしていきたい。カリキュラムのフローチャートで何かご意見があれば伺いたい。</p> <p>【鈴木委員】 学生には入学前からこういったものは知られているか。</p> <p>【高山】 アドミッションポリシーという形で見学生・入学前の学生へ伝えられ、その後カリキュラムポリシーと卒業へ向けたディプロマポリシーに繋がっています。</p> <p>【鈴木委員】 退学される人は先の事へ興味を持っていてなく、日ごろから興味や関心が低い傾向があると感じる。</p> <p>【高山】 そういった事を防ぐ為、教室で作品展示し、期ごとや1年間で出来るようになる作品を見せてイメージが出来るようにしており、さらに前回委員会でもあったように今回はフローチャートを改めて配布し、今後の学習の流れなどを伝えている。 前回の委員会で上がったリフォームを打ち出していくという点は、やはり見学生にとってピンとこない部分となってしまう、就職先にもリフォームの業界が増えているが授業、科目としてリフォームに特化したものは無く、実質 RJP がリフォーム/リノベーションの授業に相当している。 現状カリキュラムに関しては必要な科目はほとんど入っており、内容を大きく変えることは難しい、その為授業のブラッシュアップをしていくことがポイントとなると考えているが、強化したほうが良い部分などご意見を伺いたい。</p> <p>【鈴木委員】 毎期のスケジュールで担当以外の科目を見るとここまでちゃんとやっているのか、という感覚がすごくある、入学して4期の現時点でもかなりの事が出来るようになっていて、これが今後2年生でのブラッシュアップや就職に繋がっていくのだと感じる。 世の中の動きを見ると、一般の方でもネットの普及で様々な情報を手に入れられるようになり、センスのいいものや家具の好きなものを1つ2つなら簡単に手に入れられるようになった。ただ全体のコーディネーターや、トータルのバランスや組み合わせを配慮することなどはなかなか難しい、誰でも情報が取れる時代での専門家に求められる役割は全体を見る力や提案力になると感じる。</p>

【高山】

お客様がスマホですぐ調べられる時代だから、負けないように常にアンテナを張っておくことも大事ですね。

【小山委員】

例えばテクニカルカレッジとしての特色や重点のような、この分野を学ぶならこの学校がいいよ、みたいなものがあるといい。

巷では国産木材の活用が挙げられているが、それを扱うのは難しくノウハウが必要。

例えばテクニカルカレッジなら木材の活用の分野に強い。などのわかりやすい特色があると学校選びのポイントになる。全体的にも学習を行うのはもちろんだが、特にここが強いというポイントがあるとアピールしやすい。

または今現在強い特色がなにかあればそこをもっと押し出してみるといいかもしれない。

【高山】

現状、満遍なく授業を入れており、理由としては IC などの資格取得、また社会に出た際に偏りがないう分野を網羅するような形になっている。

【小山委員】

そこはベースにはなと思うが、そのうえで木材や、集合住宅の部屋作りが強いなどという売りがあると、学生自身の魅力にもなるので欲しいと感じる。

【高山】

インテリアをデジタルでコーディネートできるというところを売りにしていたりするのでそれだと他でもやっているし、弱く感じてしまう。確かにどこか強いところがあると売りになるので、現時点で特徴としては RJP などすごく頑張っているところなのでそこを打ち出していけるといいかもしれない。

【小山委員】

例えばゲームなどの分野の学科があるので協力し、ゲームエンジンで CG 空間を作り上げるなど、そういったことが出来ると面白いのではないかと思う、模型などの基礎的な部分もやりつつ CG などに特化するの難しいところではあるし、普通の事が出来ないというのも困るが、学生の立場からも求人する側から見てもわかりやすい特徴になるのでは。

【小山委員】

何かに特化するという話から変わるが、高校卒業してなんとなくこの分野が好き、という理由で学校を選んでいる人も多く、18 歳の時点で学校を決めそこから2年間で将来を決めるのはとても大変だと感じる。

システム上仕方がないが、就活もほとんど1年以上の学びを残している状態で始めないといけない。

【高山】

就職活動に関しては全体的に時期が早くなってきている面があるため、入学からまだ八か月程度の今から進路について方向性を考えないといけなくなってしまっている。

【小山委員】

早くなることで利点もあり、行く先の仕事に向けて具体的に何を学ばばいいか考えられる。

【鈴木委員】

内定が決まっていく中で、自分は今後何が出来るか、何が必要かというのをカリキュラムの中から見つけて目標(モチベーション)を作れるきっかけになると考えられるかもしれない。

それと、細かい話かもしれないが IC 試験に関して学生の話の中で就職先では IC の資格手当が出るので絶対に合格したいと話しており、企業によって金額の差や手当自体が無い場合もあるが、そういった事も認識して勉強や資格取得のモチベーションに繋げている方がいる。

インテリアコーディネーターの資格は一般の方の知名度とてもあるので有効な資格だが、企業からすると二級建築士の方が求められる。インテリア科で建築士の受験資格が得られるのは大きなメリット。

【高山】

確かに就職先の企業から取ってくれと依頼される卒業生もいます。

#### 4. 就職状況に関する報告

【高山】

前回の会議時点では 21/28 名の就職内定だったが、5名増えて現在 26/28 名。内定率 93% 新しく内定を獲得した 5 名中4名が留学生で、技術派遣の企業、1名はディスプレイ・オフィス関係の企業となりました。

#### 5. 資格試験に関する報告

【高山】

- ・色彩検定:1年生は色彩検定に全員合格、内2名は2級を取得。(100%)
- ・福祉住環境コーディネーター:2年生は昨年同様苦戦、合格率が上がらない(14.2%)  
多くの学生が基準点(70点合格)まであと数点で不合格となっている  
コロナの影響から2021年よりIBT方式の試験となり難易度が急上昇してしまい、現状対策がうまく出来ていない状態。
- ・インテリアコーディネーター1次試験:1年生2名(20%)、2年生6名(21.4%)の計8名。  
昨年度の5名からかなり増やすことが出来た。1次試験のみで申し込みをした1年生の1名を除いた7名が二次試験へ進みました。今年度より始まるCBT方式の試験に備え問題の演習をPCでGoogle Formsを使い解答、集計を出来るようにし、過去問・予想問題のS-P表による分析を行い、正答率の低い分野へ対策等を行ったことと、試験自体も今年度よりCBT形式の試験となり、基本的な問題の出題が多い傾向だったようで過去問題の対策が合格に繋がったと考えられる。(SP分析表と併せて説明)

【村田】

ICの試験の可否は受験生の相対評価で決まる為、今年から試験がCBTになって難易度が変わるということは考えにくいので、対策をしたことや学生のモチベーションが合格に繋がっていると考えています。

#### 6. 海外研修実施のお知らせ

【高山】

4年ぶりに海外研修を実施、引率教員1名とツアーガイド1名、学生20名でスペインのバルセロナへ4泊7日、事前研修を今後行い、3月に実施予定。

#### 7. 高専連携授業に関して

【高山】

昨年度から行っています、文科省も入った高専連携の実証実験・実証授業として高校生へ授業を行っています、インテリア科では昨年高校1年生へ授業を行い、来年2年生へ行う授業として、高校の教室をワクワクする・勉強が楽しくなるような空間にリノベーションしようというテーマで授業を行い、鈴木先生にもご同行いただいてプロからの目線で高校生へアドバイスができればと考えています。  
その為、小山委員に最近の教室、学校ってどういう風になっているのかという事例写真があればいくつかいただきたい。

【小山委員】

ショールームや校舎内にあるフィーチャールームのような系統の教室は多くなってきている事例写真いくつか送ります。

【高山】

また、グループワークという形をとるが、文字だけで計画するのか、図面を書かせるのかなどもご意見頂きたい。

【鈴木委員】

図面というレベルまで書く必要はなく、フリーハンドで縮尺も気にせずイメージを書いてもらうほうが良いのでは、関心を持ってもらうということを考えるとあまり実務的すぎない方が良い。

【高山】

教室の形を書いて平面で考えるか、アイソメっぽく家具など計画するかなども悩んでいるが、授業時間が短い。

【小山委員】

しっかりした図面を書く時間がかかって勿体ないので模造紙などで教室の枠を用意し、そこにA5くらいの大判の付箋を使いスケッチなどシーンを書き込んで張り付けるとアイデア出しがしや

すいのでは、ほかにも折り紙や紙粘土なども用意して自由に使ってもらうのが良い。

【鈴木委員】

教室というイメージは机が黒板に向かって並んでるというものがあるのでそれとは違う形の発想などが出るとインテリアって面白いなど感じてもらえる。

【小山委員】

インテリアは表層だけではなく、どんな使い方・そこで何が出来るかというのを考えるのが大事  
綺麗なだけじゃなく、これをするためのインテリア、という考え方を伝えると面白く感じてもらえる。グループワーク前に教室なら例えばこんな事例・住宅ならこう、というのを見せてあげると良い。また授業の最初になにか発想を促すようなことをすることでアイスブレイクが出来る。

【高山】

8. 次回予定・閉会の挨拶

今回は作品展示と発表会を3月2日を予定しており、また同日同窓会(夜テラ)も開催予定です。